

令和7(2025)年度 学校評価

教育目標	自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。
指導方針	「チームなとく」として、一人一人の実態を的確に把握し、教育的愛情をもって指導する。
目指す学校像	児童生徒がもてる力を高めて生き生きと活動できる学校
生活目標	明るく つよく 美しく

1 分掌部・各学部の目標及び評価

重点目標	(1)一人一人に応じた指導の充実 - 児童生徒の主体的な取組を大切にした授業づくりの充実 - 生活力を高める指導の充実 - 不登校児童生徒への対応の充実 - ICT(情報通信技術)を活用した授業実践の工夫	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
小学部	- 教員、生活学習指導員、保護者等と連携し、生活動作の獲得に向けた支援を行う。 - 児童が身に付けた力を学校や家庭で継続して実践するための支援を行う。	- 目標とする生活動作を児童一人一人に適切に定められたか。 - 支援方法の工夫や共有ができたか。 - ホームワーク週間を有効活用できたか。 - 寮務部のホームワークシートを有効活用できたか。 - 効果的な取り組み事例について、情報共有できたか。 - 連携した実践が継続できるように工夫できたか。 - 保護者等に連絡帳、保護者等懇談、学部懇談の機会に啓発できたか。
中学部	- 生活力を高めるために、どの場面で、どのような指導が有効かを生活学習指導員と連携を図りながら指導を進めていく。 - 指導方法を充実させ、学校と家庭で同じような取り組みができるよう保護者等に情報を発信する。	- 生活学習指導員と情報共有しながら連携して指導に当たることができたか。 - 生徒の実態把握、課題、どの場面でどのように指導するかなど情報共有する手段を確立できたか。 - 生活力を高めるための指導の取り組みを定期的に保護者等へ情報発信して、さらに家庭での様子をフィードバックしてもらうことができたか。
高等部	- 学習指導部の教科連携係と連携しながら、卒業後の生活につながる能力を高めるため、作業学習などで生徒が主体的に取り組めるような授業改善を行う。 - 引き続き、担任等、学部主事、生徒指導部、関係職員が連携し、不登校生徒への対応の充実を図る。	- 作業学習では、各作業班での目標、学習内容、指導方法の見直しを行うことができたか。(重複1課程においては、日常生活や自立活動中心に) - 校内実習や産業現場等における実習での振り返りをまとめ、「作業学習」の学習内容に取り入れて授業を行うことができたか。 - 不登校の傾向を逃さずに、チームで情報共有ができたか。 - 組織的な対応ができたか。 - 適切な支援が実施できたか。 - 家庭や関係機関と連携し、対応ができたか。
訪問教育学級	ITやICTを児童生徒一人一人に応じて活用し、学習経験の拡大につなげることができる。	- 児童生徒一人一人に応じた指導を実践することができたか。 - ITやICTを効果的に活用し、児童生徒の主体的な活動につなげた指導ができたか。 - スクーリングや校外学習、行事等でICT機器を活用し、蓄積した実践を教員間で共有することができたか。
学習指導部	校内研究や事例検討会を通じた教職員間の連携と、ホームワーク週間等を通じた家庭との連携を図りながら、児童生徒一人一人に応じた授業作りを行う。	- 教育課程研究の6年目となり、教職員間で連携してこれまでの研究をまとめることができたか。 - 自立活動の事例検討会をもち、普段の指導に生かすことができたか。 - ホームワーク週間をふだんの指導や家庭との連携の機会として活用することができたか。
寮務部	検証事業の一環として、家庭や学校と連携をとり、個々の生活目標を設定し、生活力の向上を図る。	保護者や担任と十分に連携をとり、目標の設定をするとともに、ホームワークシートを活用し、家庭、学校と協力して実践をすすめ、達成度の経過観察を行うことで生活力の向上を図ることができたか。

重点目標	(2) 安心・安全な学校環境の整備と充実 ・安全管理体制、実践的な防災安全教育の充実 ・人権意識を育み、安心感を高める環境の整備	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
生徒指導部	・いじめに関する職員研修を充実させ、定義や認知に対する共通理解を徹底しながら、いじめ防止や早期発見・対応、教育的解決のための組織体制の充実を図る。 ・教育相談に関する意識の高揚を図り、SCとの個別の教育相談事業等を活用し、より一層の安心感を高められる教育相談体制の充実を図る。	・いじめの認知について必要な見直しを行い、周知徹底を図ることができたか。 ・職員研修の充実(時期や内容、回数等)を図ることができたか。 ・いじめ情報共有シートを活用した必要な情報発信や啓発、教育的解決に向けた指導等を適切に行うことができたか。 ・SCとの個別の教育相談の案内や、必要な啓発を適切に行うことができたか。 ・SCとの必要な情報交換等を適切に行い、個別の指導や支援に生かすことができたか。
健康指導部	・児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように、安全で衛生的な学習環境を整備する。	・安全点検のあり方や校内表示の見直しなどを通して、安全面の強化を図ることができたか。 ・校内の清掃状況を踏まえ、清掃用具を把握・整理し、清掃環境を整えることができたか。 ・危険箇所や危険生物等の情報を共有しながら教職員の安全意識を高めるとともに事故を未然に防ぐことができたか。
寮務部	・スクールハウスを使用しての宿泊体験では、年間を通して54名の児童生徒がローテーションで泊まり、一日、最大15名が宿泊するため、定期的に避難訓練を実施し、災害に備えることができる。	・初めて宿泊体験に参加する児童生徒がいる場合は、必ず初日に避難訓練を実施し、避難態勢や避難経路を確認するなど、安全の確保を実践的に行う。また、職員は体験生の安否確認を行い、速やかに管理職に報告することができたか。

重点目標	(3)保護者等、地域との連携の充実 ・家庭と連携した指導の充実 ・ICT等を活用した情報発信の充実 ・適切な情報交換による共通理解の促進 ・地域活動の一層の充実と啓発活動の推進	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
渉外部	・これまでのPTA組織を見直し、会員及び地域等と連携しながら、新しい体制を整え、PTA活動の一層の充実を図る。	・新しいPTA組織や活動について、会員に理解してもらえるよう説明をしたり、活動の補助を行ったりすることができたか。 ・会員と話し合いを重ねながら、各活動に積極的に取り組むことができたか。 ・実施したPTA活動について、PTA新聞やホームページに掲載し、情報を発信することができたか。
地域支援部	・本校についての理解や地域との連携を深めるために、地域のニーズに応じた事業や地域活動に取り組む。	・地域のニーズに応じた事業(学校公開、公開研修、巡回相談など)を計画・実施し、センター的機能を果たすことができたか。 ・各事業の様子などをホームページに掲載したり、参加申し込みフォームを用いたりすることができたか。 ・学校支援ボランティアによる活動の場を拡充することができたか。 ・ボランティアスクールを実施し、本校の教育活動や児童生徒について、地域の方々に理解してもらうことができたか。
進路指導部	・地域での自立に向けた、本校の進路指導について、保護者等や関係機関との連携や学習の様子などの情報発信の充実を図る。	・ホームページで進路情報を随時更新することができたか。 ・保護者等向けの福祉施設説明会、研修会などの実施方法や内容を見直すことができたか。 ・保護者等、関係機関、地域の福祉事業所等が求める情報の把握と発信を行うことができたか。 ・研修会等の資料をホームページに掲載することができたか。

重点目標	(4)教職員が働きがいを感じられる学校づくり ・働き方改革の推進と、児童生徒と向き合う時間の確保 ・研修・研鑽に励み、資質・能力の向上ができる体制づくり ・互いに学び合い、意見交換できる環境・風土の醸成	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
教務部	・教職員が主体的に研修に励み、スキルアップにつながる体制づくりを行う。	・校内のニーズに合わせた研修の企画・運営ができたか。 ・外部研修の周知や受講の推奨を行うことができたか。 ・チームで協働して授業をつくる力を高めるために、基本研修における研究授業を活用し、充実した授業研究会を実施できたか。 ・学部会等を活用し、教師同士が学べる機会を設定することができたか。 ・効果的な教材教具について随時紹介をしたり、校務データ内の教材を整理し、使いやすいシステムを構築したりできたか。
情報部	・ICT技術を活用することで、校務にかかる時間を削減する。	・「校務リンク」や「なとくクラウド」の利便性を改善することで、目的のファイルへのアクセス時間を削減することができたか。 ・校務DXを推進することで、印刷物や郵便物を削減するとともに、教職員や文書などの物理的な移動を削減することができたか。 ・会計簿や時数管理表など、表計算アプリを用いたファイルを改善したり開発したりすることで、作業にかかる時間を削減することができたか。 ・生成AIを活用することで、文書や教材の作成時間を削減することができたか。
特別活動部	・各係や行事における業務内容の見直しや整理を行い、業務がスムーズに行えるようにする。	・係分担の工夫と業務の効率化を図ることができたか。 ・昨年度の反省を十分に生かすことができたか。